

小学校 社会科 部会

部会長名 糸田町立糸田小学校 校長 高上 克也
実践者名 糸田町立糸田小学校 教諭 野田 大樹

1 研究主題

資料活用能力を育てる社会科学習指導

～問いづくりの工夫と交流学习サイクルを活かした授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

現代社会は情報化社会といわれるように、様々な分野で情報がなくてはならない世の中となっている。それにともなって情報機器もめまぐるしく発展している。しかし、その反面、誰でも身近に取り扱うことができるようになったことにより、情報の発信者が増加し、膨大な量の情報が混在している。その中で、自分にとって本当に必要な情報を取捨選択する力が求められる。さらには、手に入れた情報とこれまで蓄積してきた知識と結び付け活用していく力も必要である。

PI S Aの調査の結果では、読解力は2012年にはOECD加盟国の中で1位であったが、2015年の調査では6位となっており、得点も538点から516点と下がっている。このことから、我が国の子どもたちは、資料から情報を抽出し、整理して考察することや自分の考えを持つことについて課題があると考えられる。

(2) 指導要領解説より

小学校指導要領解説社会科編では、各学年の能力に関する目標において、「観察力や資料活用力について、第3学年及び第4学年では、地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図（絵地図を含む）や各種の具体的資料を効果的に活用することができるようにすることを、第5学年では、社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用することができるようにすることを、そして第6学年では、社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用することができるようにすることを求めている。」と書かれている。効果的な活用とは、情報の抽出だけでなく、取捨選択や比較・検討すること、自分の考えをもつことを示しており、系統的な指導の中で育成していかなければならない。

(3) 本校児童の実態およびこれまでの社会科授業より

本校では、全国学力・学習状況調査や福岡県学力実態調査、また、NRT標準学力検査の結果から、国語科の読解力に課題があり、1年前より国語科の授業研究に取り組んでいる。このことは、社会科の授業においても、資料から必要な情報を抽出することができず、自分の考えを持つことができないため、交流場面での深まりが乏しいなど、同じような姿が見られる。

これまでの社会科の授業を振り返ってみると、資料の提示の方法が教師からの一方的なものであること多く、児童に必要感がないため、資料を課題解決の材料として見ることができず、意欲も低い。

このような状況から、資料から情報を読み取ったり、資料を基に自分の考えをまとめたり、必要な資料を取捨選択したりする資料活用能力を高める指導方法の工夫・改善をすることは大変価値があると考えられる。

3 主題の意味

(1) 資料活用能力とは

資料活用能力とは、資料を教師から一方的に与えられるものではなく、児童が自分で目的に応じて活用することができる力である。社会科における資料とは、文章資料・図表資料・現物資料・映像資料・音声資料と様々であり、目標、内容、学習過程などによって活用の目的も異なってくる。目的に応じた活用のために、資料から事実を読み取る力、資料を収集する力、資料を吟味し選択する力、資料をつくり出す力が重要である。

(2) 問いづくりの工夫とは

学習意欲の高まりや資料への必要感、課題の共有や課題解決の見通しを持たせるために、具体物や身近な資料を提示するなど、児童に「問い」をもたせるための導入段階の工夫である。

(3) 交流学习サイクルとは

授業における交流活動により、他者の考えを見たり聞いたりすることで、自分の考えと比較したり再考したりし、新たな見方・考え方を持つことができるようになる。交流学习サイクルとは、交流活動の繰り返しにより、見方・考え方を深めていくことである。

4 研究の目標

5 学年及び 6 学年の社会科における資料活用能力を育成するために、問いづくりの工夫と交流学习サイクルを活かした授業づくりの方法を究明する。

5 研究仮説

導入段階における問いづくりを工夫することによって、児童に資料の必要感を持たせ、意欲的に資料を活用しようとする態度を育てることができるであろう。また、課題解決のために必要な資料の取捨選択や複数の資料から新たな考えを導く等、資料活用に関わる基礎的な力をつけ、資料を基にした考えを交流する活動を仕組みれば、お互いに資料に対する見方・考え方を深めることができ、さらに資料活用能力が高まるであろう。

6 研究の計画

(1) 授業 1

① 単元「近代国家へのあゆみ」

小単元「新しい時代の幕開け」

②小単元の目標及び指導計画

単元		総時数	8時間	時期	9月
単元の目標		<ul style="list-style-type: none"> ○ 廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、西洋の文化を取り入れたことに関心をもち、それを意欲的に調べ、我が国の近代化について考えようとする。 (関心・意欲・態度) ○ 廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、西洋の文化を取り入れつつ近代化を進めたことなどを、世の中の出来事や人物の働き、人々の暮らしなどを通して考え、説明することができる。(思考・判断・表現) ○ 開国による影響や明治政府による諸改革による社会の変化について、地図や年表、資料から情報を読み取ったりまとめたりすることができる。 (技能) ○ 明治政府が廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解することができる。 (知識・理解) 			
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点(援助・支援)	
1	1	開国前後の時代の変化について関心をもって調べようとする。	横浜の様子を表した絵図と写真を比較し、新しい時代に至る過程やどのような変化があったのかという学習課題をつくる。	・横浜の様子を表した絵図と写真を比較し、新しい時代に至る過程やどのような変化があったのかという学習課題をつくる。	
2	1	開国に至る経緯や、外国と結んだ条約が不平等なものであったことを理解する。	黒船来航の様子とその目的、それに対する幕府の対応や外国との条約の内容を調べる。	・開国が日本にもたらした影響を具体的に考えられるようにする。	
	2	資料から、幕府に対して人々がどのような見方をしていたかを考えることができる。	幕府に対する人々の不満の高まりや、新しい政治を目ざす動きの強まりについて調べ、江戸幕府が倒れた経緯をつかむ。	・グラフの変化から、開国がもたらした影響と倒幕への動きを関連づけて考えさせる。	
	3	明治政府が行った諸改革の内容と、それによって社会がどのように変化したのか理解する。	明治政府が行った諸改革によって、社会がどのように変わっていったのかを調べる。	・資料から、新しい政府が欧米から国づくりを学ぼうとしたことをとらえさせる。	
	4	富国強兵の国づくりが進められた目的を、外国との関係と関連付けて考えることができる。	明治政府が進めた富国強兵の国づくりについて調べ、それによって政府が何を目ざしたのかを考える。	・明治政府が何のために改革を行ったかを考えさせ、政府のねらいをとらえさせる。	
	5	明治時代の変化につ	江戸時代と明治時代の生	・江戸時代と明治時代の変化	

	いて、根拠となる事柄を資料から抽出し、自分の考えを持つことができる。	活の様子を比べ、どのように生活が変化したかを考える。	について、自分の考えの根拠となる資料を教科書や資料集から探させる。
6	自由民権運動が起こり、広まった意味や、その影響について考えることができる。	自由民権運動や西南戦争について調べ、人々がどのような政治を期待していたのかを考える。	・西南戦争や士族の反乱、自由民権運動が起こったわけを考えさせ、人々がどんな政治を望んでいたかつかませる。
7	大日本帝国憲法の内容から、明治政府が目指した政治の考え方を理解する。	大日本帝国憲法の条文や制定過程から、明治政府が目ざした政治のあり方について考える。	・国民と政府それぞれが作った憲法を比較し、国民と政府の願いの違いを考えさせる。

③指導の実際

ア 主眼

江戸時代の生活と明治時代の生活の暮らしやすさを比べるために、絵図や年表、グラフや文献等、様々な資料を読み取る活動を通して、明治の時代背景と関連づけながら、人々の生活の変化や特色について考えることができるようにする。

イ 準備

街の様子 of 挿絵（江戸時代・明治時代）、年表、学校の授業風景の挿絵
福澤諭吉の挿絵、学校に通った子どもの割合のグラフ

ウ 展開

	学習活動	指導上の留意点	配時
導入	1 明治時代と江戸時代のどちらが暮らしやすいか予想し、めあてをつくる。	○明治時代と江戸時代の東京の挿絵から予想させる。	5分
	めあて 江戸時代と明治時代の生活で、暮らしやすいのはどちらだろうか。		
展開	2 どちらが暮らしやすいか自分の考えの根拠を資料から探す。	○自分の考えの根拠となる資料を教科書や資料集から探させる。 ○既習を振り返ってもよいことを伝え、比較しやすくする。 ○資料を読み取る中で、自分の考えが変わってもよいことを伝える。	10分
	(暮らしやすい) ・洋服が着やすい ・便利なものが増えている ・平等な世の中になった ・今の暮らしに近い		
	(暮らしにくい) ・徴兵令で兵隊に行かなくてはならないから ・女子だけ学校に行けてないから	評価規準 根拠となる事柄を資料から抽出し自分の考えをもつことができる。(ノート)	

終 末	3	考えをグループで交流する。	○根拠となる資料を友達に提示して自分の考えを言わせるようにする。 ○友達の考えを聞いて、自分の考えを変えたり、補強したりしてもよいことを伝える。	10分
	4	全体で交流し、文明開化という用語について知る。	○それぞれの時代の優劣よりも、意見が分かれるほど大きく変わったことに着目させる。 ○前時までの学習を想起させ、西洋というキーワードを出させる。	12分
	5	本時学習をまとめる。		7分
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 明治時代になって、暮らしやすくなったところと暮らしにくくなったところがあったが、人々の生活は西洋の影響を強く受けて大きく変わった。</p> </div>			
	6	次時の学習を確認する。	○本校創立の資料を提示し、生活の変化が全国に広まっていったことを確かめるようにする。	2分

(2) 授業 2

①単元「工業生産を支える人々」

小単元「工業の今と未来」

②小単元の目標及び指導計画

単元	総時数	7時間	時期	11月
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活がさまざまな種類の工業製品に支えられていることに気づき、日本の工業生産の特色について、興味をもって調べようとしている。 (関心・意欲・態度) ○ 工業製品と人々の生活を関連づけて、工業製品は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考え、表現することができる。 (思考・判断・表現) ○ 工業の盛んな地域の広がりや特徴を地図や資料から読み取り、まとめることができる。 (技能) ○ 日本国内での生産の割合が大きい工業の種類や工業生産を支える中小工場の優れたものづくりなど工業の特色や工業生産が国民生活を支えることを理解することができる。 (知識・理解) 			
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点(援助・支援)
1	1	生活が多様な種類の工業製品に支えら	工業製品の仲間分けをしたり、日本の工業生産額	・工業製品の分類の方法を自由に話し合わせる。

	れていることに気づき、日本の工業生産の特色について、興味をもって調べようとする。	の変化を読み取ったりして、日本の工業についてわかったことや疑問を話し合い、学習問題を立てる。	・工業生産の工夫や努力、工業の種類などを踏まえ、日本の工業生産全体の特色や今後の在り方について調べていくことを促す。
2	大工場がある場所と交通網や人口などの条件とを結びつけて考え、書くことができる。	工業のさかんな地域とその特色を、工場の立地条件から地図を使って調べ、話し合う。	・輸送や働く人と工場の立地条件の関係を考えさせ、工業地帯・工業地域のある場所を考えさせる。
3	内陸でも交通網の発達により工業が盛んになっていることを理解する。	内陸の工業のさかんな地域とその特色を、作っている製品の特徴から考え、話し合う。	・輸送や働く人の条件に合わない工業地域を取り上げ、課題意識をもたせる。
4	大工場や中小工場の特色について、資料から読み取ったことをノートや教科書にまとめることができる。	大工場と中小工場の生産の特色について、写真や統計資料などから読み取り、ノートなどにまとめる。	・大工場や中小工場の写真を比較させ、生産の規模の違いや生産している製品の違いなどに着目させる。
5	高い技術を生かしてものづくりをする中小工場の工夫や努力について、必要な情報を資料から読み取り、ノートにまとめることができる。	写真や働く人の話などを通して、大田区の中小工場のものづくりの様子を調べ、中小工場の工夫や努力について話し合う。	・中小工場についての学習意欲を持たせるために、自分達の住む地域の工場をとりあげる。
6	日本の工業生産は、多くの中小工場の優れたものづくりによって支えられていることを理解する。	写真や働く人の話などを通して、東大阪市の中小工場のものづくりの様子を調べ、大田区のものづくりとも比べながら、気づいたことを話し合う。	・大田区の中小工場の特色と東大阪市の中小工場の特色を表に書き出しながら比較させる。
7	工業生産と人々の生活を関連づけながら、工業生産が国民生活に果たす役割や今後目指していく工業生産のあり方について考え、表現することができる。	心を豊かにする工業生産について、具体的な製品の例をもとに調べ、工業生産が人々の生活に果たす役割や意味について話し合い、これからの工業生産のあり方について考えをまとめる。	・身の周りの工業製品が自分達の暮らしに何をもたらしているか考えさせる。

③指導の実際

ア 主眼

工業地帯や工業地域がどんなところにあるか予想し、地図から立地条件を書き出す活動を通して、工業の盛んな地域が土地の条件や交通網の発達と関連があることを考えることができるようにする。

イ 準備

工業地帯・地域の分布地図 日本地図が書かれた透明シート
自動車工場の写真 書画カメラ

ウ 展開

	学習活動	指導上の留意点	配時
導入	<p>1 大きな工場はどんなところに集まっているか考え、本時学習のめあてをつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>予想される児童の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海・港に近いところ ・広い土地（平らな土地） ・大きな町の近く ・空港の近く ・高速道路や鉄道のあるところ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 大きな工場はどんなところに集まっているのか予想をもとに調べよう。</p> </div>	<p>○自動車工場の写真を提示し、工場の大きさのイメージをつかませるとともに、大きな工場を建てるならどんなところがよいか考えさせる。</p> <p>○既習内容を想起させ、輸送や働く人の条件から考えさせる。</p>	7分
展開	<p>2 透明シートの日本地図に工場の立地条件を記入する。</p>	<p>○グループで立地条件の役割分担をさせ、地図帳をもとに記入させる。</p> <p>○条件を揃えるために、地図帳の参考ページを提示する。</p> <p>○高速道路や鉄道については、複雑なため、教師が資料を準備する。</p>	15分
	<p>3 記入したシートと工業地帯・工業地域の分布図を重ね、予想が合っているか確かめる。</p>	<p>○書画カメラを使い、他のグループの結果も見せる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価規準 大きな工場がある場所と交通網や人口などの条件とを結びつけて考え、書くことができる。(ノート)</p> </div>	7分
	<p>4 気づいたことを記入し、全体で交流する。</p>	<p>○日本地図から太平洋側に多いことに気づかせ、「太平洋ベルト」についてもふれる。</p>	10分

終 末	5 「工業地帯・工業地域」という用語を知り、本時学習をまとめる。	○本時学習の条件に合わない工業地域を取り上げ、課題意識をもたせる。	5分
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ 工業地帯・工業地域は、人口が多いまちの近くや、港や空港に近いところにある。</p> </div>		
	6 次時の学習について知る。		1分

8 研究のまとめ

(1) 6学年の「新しい時代の幕開け」の指導において、導入段階で、江戸時代と明治時代どちらが暮らしやすいか、明治時代を概観しながら予想する活動を仕組むことによって、暮らしの様子を調べて比べたいという意欲を持つことができた。

それぞれの考えを交流するために、考えの根拠となる資料を探す活動を仕組んだことで、児童は、さまざまな資料から自分の考えにあった資料を選ぶことができ、さらに、資料から詳しい情報を読み取ろうとする姿が見られた。

交流場面では、根拠となる資料を提示しながら、自分の考えを発表することができ、聞いている児童も、その場で説明された資料を見返す姿が見られたり、自分の根拠に書き加えたりする姿が見られ、交流活動によって、資料の新たな見方に気づくことができたと考える。

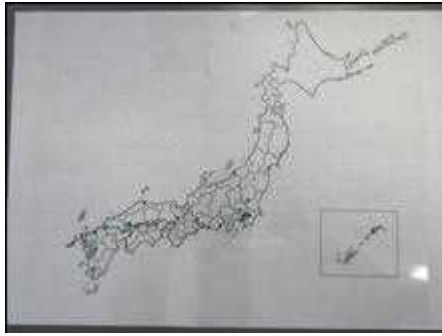
さらに、小単元の学習のまとめとして行った新聞づくりでは、自分の考えの根拠となる事柄を資料から抽出し、それらを結び付けて書く姿が見られ、資料をつくり出す力も育ってきている。(資料1)



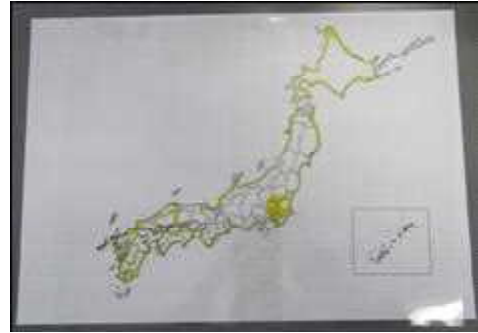
(資料1 児童が書いた新聞)

(2) 5学年の「工業の今と未来」の指導においては、導入段階で工場が集まるところはどんなところかを写真を提示し予想させ、その予想があっているかどうか確かめるための資料として、地図帳の必要感を感じることができた。

交流場面では、まず、透明シートに書かれた白地図に、児童が予想した工場の立地条件に合う場所を地図帳から探し、それぞれ書き込ませた。(資料2・3)その後、すべてのシートと工業地帯・工業地域の分布地図を重ねることで、予想した立地条件が合っていることを理解することができた。(資料4)この活動を通して、複数の資料から一つの結論を見つけるという資料の見方に気づくことができた。



(資料3 人口100万人以上の都市)



(資料4 全国の主な平野)



(資料5 工業地帯・地域とシートを重ねた地図)

9 成果と今後の課題

〈成果〉

- 具体物の提示や必要感をもたせるという問いづくりの工夫をしたことで、児童が意欲的に資料を調べようとすることができた。
- 必ず資料を提示させながら交流活動を行ったことにより、友だちの資料の見方を知ることができ、資料を見る視点を広げることができた。
- 児童の実態に沿って工夫した教具を使って交流することで、複数の資料から抽出した情報を統合させて考えるよさを感じることができた。

〈課題〉

- ▲ 教師からの一方的な「問い」づくりになってしまったため、意欲は高まったものの、資料を深く読み取ろうとする姿がなかなか見られなかった。児童の考えとのズレから、「問い」をつくり、児童が、「なぜだろう。」「本当かな。」と感じさせることが、資料を深く読み取る力をつけていく上で必要である。
- ▲ 交流の時間を設定し繰り返すことで、友だちがどのような資料の見方をしているかを知ることができ、資料の多面的な見方を身につけることはできた。しかし、そこから新たな深い考えを構築するまでにはなかなか至らなかった。単に交流を繰り返すのではなく、

新たな課題を明確にし、解決の見通しをもたせた上で、資料を活用し考えを精査させていくことが必要である。

◎ 参考文献

- ・ 小学校指導要領解説 社会編 （文部科学省）
- ・ 社会指導資料 （教育出版ホームページ）